

神話モンマネキ (南米) と月の嫁(北米) の関係

「食事作法の起源」における新大陸、南北での文化と自然の相克

要素 (着地点は 社会の創成)	モンマネキ神話 (M354, Tukuna族、アマゾン) 嫁取りの失敗	月の嫁神話 (M452, Arapaho族、北米プレーリー) 月の成功、太陽の失敗	共通項
1 きっかけ	M1神話 (Bororo族) の洪水後の世界、一家族のみが救い出され孤立する。文化とは火と狩りの技術のみ。	天上家族の孤立、月と太陽の不規則活動	孤立
2 行動	モンマネキは婚姻同盟を結ぶため、嫁取りを試みる。しかし4例の人獣婚、5例目にして人の女との婚姻にいたる。	月と太陽の「地上の女」評定、地上に降りて誘惑する	同盟の模索
3 判定結果	食事作法 (食材の採取、加工、季節性などの取り決め) に違反、いずれも破断になった。	咀嚼中の音立て (心地よい音) でカエルは落選、Arapaho 娘は受け入れられる。しかし地上に脱出し、月と人との同盟は破断	破断
4 社会創成	社会形成の基礎である婚姻同盟は創成できなかった。嫁を探しにモンマネキはカヌーで川を下る。次の段階への移行を示唆。	月嫁は子を抱え地に戻るとするが、墜落死する。文化創成は次代に移る。	次段階
5 預言者	老母；食事作法の厳守を息子に厳命	義父が嫁に妊娠、胎児の生育、分娩の理を教える。以来女に月経が発生し、子は10月で生まれる。	社会の形成前に文化規範が存在する

弁証法的解析で一致

弁証法的解析で一致

分析的理性で共通項が多い

神話学「食事作法の起源」から
作成・部族民通信通信 2019年9月30日